

●新会員代表者紹介
 しまだ まさよし
嶋田 順好



宮城学院学院長

海野道郎学院長の退任に伴い、宮城学院第一〇代学院長に四月一日付で嶋田順好氏が就任した。任期は四年。

新学院長は一九五二年埼玉県東松山市生まれ。早稲田大学政経学部を卒業後、住友銀行勤務を経て、東京神学大学に学士編入。一九八〇年同大学院神学研究科博士課程前期課程を修了し、日本基督教団中渋谷教会の伝道師に就任、その後主任教師として仕える。一九九九年青山学院大学国際政治経済学部にて助教授、大学宗教主任として着任、

教授昇任後、学院宗教部長、副院長を歴任。この間、捜真学院評議員、キリスト教学校教育同盟理事、常任理事となり、現在は東京神学大学理事、日本聖話学校理事。

専門分野は歴史神学（聖餐論、実践神学（説教論）で、主な著書としては共著で『プロテスタントリズムと伝統』（新教出版社）、『キリスト教大学の使命と課題』（教文館）、単著で『愛の極みの中で』（聖学院ゼネラルサービス）がある。

新学院長のもと、建学の精神を重んじつつ、宮城学院は、①生かされていくことを喜び感謝する人、②自分自身に備えられた固有の賜物を見だし、それを存分に用いることができる人、③愛において何が重要であるかを熟慮し、実践することができると、④勇気と志と望みをもって目標にチャレンジできる人、⑤専門的な職業人として自立し、誇りをもって働ける人、⑥深く郷土を愛し、震災からの復興、再生に貢献できる人、⑦言語や民族や文化の違いを超えて他者との絆を築ける心広やかな人、を育むことに心を注いでいく。

●新会員代表者紹介
 やまさき てつや
山寄 哲哉



武蔵大学学長

清水敦前学長の任期満了に伴い、山寄哲哉社会学部教授が四月一日付で学長に就任した。任期は二〇一八年三月末日まで。

山寄新学長は一九五七年山口県生まれ。一九八一年早稲田大学第一文学部社会学専攻卒業。一九九〇年同大学院博士後期課程単位取得退学。早稲田大学文学部助手を経て、一九九一年武蔵大学人文学部社会学専攻専任講師に着任。一九九三年同学部助教授。一九九八年に学部学科再編により新設された社会学部に異動し、二〇〇〇年から同学部

教授。二〇〇七年から社会学部部長を務め、二〇〇九年には学生支援センター長として奨学金制度の改革などに貢献した。その後、教務部長、学長補佐として、清水前学長のもとで大学改革に取り組んできた。

専門は社会学で、現象学的社会学の理論研究から出発して、「生活クラブ生協」の実証的研究を経て、戦後日本の社会意識の変化、特にジェンダー意識に着目した研究を続けている。共著に『現象学的社会学の展開』『団塊世代・新論』など。

武蔵学園は、今年、根津公一理事長が学園のドクトリンを公表し、国際社会に貢献する人材を育てることを教育目標とした。大学でも、「ゼミの武蔵」を基盤に、ゼミで養われた自調自考の資質を世界へと飛躍させるべく、新たな取り組みを始めている。全学生在学中に海外体験をできる仕組みづくりや、海外大学とのダブル・ディグリー制度の実現など、武蔵大学をグローバルな大学として脱皮させ、学生・卒業生が、自らが生活する場所ので、「地球市民」として活躍できる大学へと改革することが期待されている。

●新会員代表者紹介

杉山 晃



清泉女子大学学長

四月一日付で杉山晃教授が第二二代学長に就任した。

新学長は一九七三年に東京外国語大学のスペイン語学科を卒業、同大学院に進み、メキシコやスペインの大学でも学んでいる。東京外国語大学大学院ロマンズ系言語修士課程修了、スペイン国立遠隔通信大学（UNED）言語学部スペイン文学・文学理論学科大学院博士課程単位取得。東京外国語大学や学習院大学、東京大学などで教鞭を執り、本学では一九八六年よりスペイン語スペイン文学科の教員、学部の学科主任や大学院の言語文化専攻主任、

人文学専攻主任、図書館長などを歴任している。

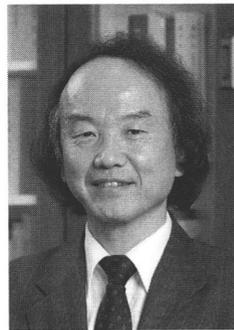
専門はラテンアメリカ文学。これまでメキシコやペルーの作家（ルルフォ、バルガスリリョサ、アルゲダス）の主要作品を翻訳紹介してきた（『ペドロ・パラモ』『都会と大どろ』『深い川』など）。また『南のざわめき』や『ラテンアメリカ文学パザール』（いずれも現代企画室）といった著書もある。最近夏目漱石の『夢十夜』や『永日小品』のスペイン語訳をスペインの出版社より刊行した。

本学では目下、カリキュラム・ポリシーを策定し、カリキュラム・マップを作成するとともに、カリキュラム全体の整備再編を推し進めるための検討が行われている最中である。当面はこれに力を注ぎ、学生たちの学びがより効果的で充実したものになるように全学的な力を結集したいとしている。

学長になり多忙を極め、読書や翻訳の時間がままならないことを嘆く。森鷗外「青年」のスペイン語訳は頓挫したままで、アルゲダスの書簡集をかうじてひもどけるのがせめてもの慰めなのだそう。

●新学長紹介

牛渡 淳



仙台北百合女子大学学長

石出信正副学長のあとを受けて、牛渡淳人間学部教授が四月一日付で学長に就任した。

牛渡新学長は一九五二年宮城県生まれ。一九七六年東北大学教育学部を卒業後、一九八二年東北大学大学院教育学研究科博士課程後期課程を満期退学。その後、仙台北百合短期大学講師・助教、国立教育政策研究所客員研究員、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員などを経て、一九九六年仙台北百合女子大学教授、同大学人間学部長を四期八年間務める。博士（教育学）。

専門は教育行政学、教育経営学、教師教育学。特に、アメリカの教育制度や教師教育、児童文化を研究。『現代米国教員研修改革の研究』（風間書房）、『改定 初めて学ぶ教育の制度・行政・経営論』（編著書、金港堂）、『アメリカ映画における子どものイメージ』（単訳、東信堂）他多数の著書論文がある。現在、日本教育経営学大会会長、日本学校教育学会理事、日本国際教育学会理事、日本教師教育学会理事などを務める。趣味は音楽鑑賞。

仙台北百合女子大学は、東京の白百合女子大学とともに、学校法人白百合学園が経営する二つの大学の一つで、東北地方唯一の四年制カトリック大学である。白百合学園は、一七世紀末にフランスに生まれたシヤルトル聖パウロ修道女会を設立母体としており、現在、全世界三十四カ国で教育と福祉活動を行っている。わが国では、「白百合」の名のもとに、女子教育の名門として高い評価を受けている。本学は、昨年度、時代の変化に対応した新学科学体制をスタートさせた。高い知性と豊かな人間性を兼ね備えた、品格のある女性の育成に取り組んでいる。

一般社団法人日本私立大学連盟 新役員選出される

役員の新任期満了に伴い、第200回定時総会（平成26年6月17日開催）において理事、監事の後任者の選考が行われ、新たな理事、監事が選出されました。その後、理事会において会長、副会長及び常務理事をそれぞれ決定し、会長には引き続き清家篤慶應義塾塾長が、副会長には楠見晴重関西大学大学長及び鎌田薫早稲田大学総長が選出されました。

《会 長》

清家 篤 慶應義塾 塾長

《副会長》

楠見 晴重 関西大学 大学長

鎌田 薫 早稲田大学 総長

《常務理事》

仙波 憲一 青山学院 大学長

福原 紀彦 中央大学 大学長

村田 晃嗣 同志社 大学長

田中 優子 法政大学 総長

早下 隆士 上智学院 大学長

村田 治 関西学院 大学長

日比谷潤子 国際基督教大学 大学長

福宮 賢一 明治大学 大学長

大塚吉兵衛 日本大学 大学長

佐藤 和人 日本女子大学 理事長・大学長

吉岡 知哉 立教学院 大学総長

川口 清史 立命館 総長・大学長

小野 祥子 東京女子大学 大学長

國枝 マリ 津田塾大学 大学長

《理 事》

佐藤 元彦 愛知大学 理事長・大学長

衛藤 卓也 福岡大学 大学長

井上 寿一 学習院 大学長

湊 晶子 広島女学院 大学長

吉沢 英成 甲南学院 理事長

藤岡 一郎 京都産業大学 大学長

赤坂 博 京都精華大学 理事長

村上 宏之 松山大学 理事長・大学長

ミカエル・カルマノ 南山学院 大学長

植木 實 大阪医科大学 理事長

油井 雄二 成城学院 学園長・大学長

G・W・パークレー 西南学院 大学長

岡崎 淑子 聖心女子学院 大学長

日高 義博 専修大学 理事長

松本 宣郎 東北学院 理事長・大学長

吉岡 俊正 東京女子医科大学 理事長

岩本 繁 東京経済大学 理事長

榊 裕之 トヨタ学園 大学長

《監 事》

鵜殿 博喜 明治学院 大学長

赤松 徹眞 龍谷大学 大学長

市川 太一 修道学院 大学長

《参 与》

古屋 正博 慶應義塾 塾長室長

（任期は平成二十八年六月総会終結時まで）

第353号 (平成25年11月発行)

【特集】

奨学金政策の今、そしてこれから



【座談会】

サービス・ラーニングの学びが学生にもたらすもの

【小特集】

今、大学は「平和」にどう取り組むか—学徒出陣70年の節目に

【インタビュー】

岩崎紘昌氏 (古美術商・西洋アンティーク評論家)

第354号 (平成26年1月発行)

【特集】

変わる大学図書館と学修支援の広がり



【座談会】

大学は“2020年問題”にどう向き合うか—18歳人口の減少から大学の今後を考える

【小特集】

オープンキャンパスのこれから

【インタビュー】

小堀邦夫氏 (式年遷宮記念せんぐう館初代館長、神宮禰宜)

University
Current Review



大学時報

奇数月20日(年6回)発行

日本私立大学連盟

WEBサイトにて、全文を

無料公開しています。詳細は、

<http://www.shidaiaren.or.jp/>

activities/daigakujihou

※第344号(平成24年5月発行)のものから、対応しています。

第355号 (平成26年3月発行)

【特集】

大学のブランディング



【座談会】

いま大学に求められる情報倫理教育とは

【小特集】

「グローバル人材」育成に潜む危険にどう備えるか—大学の海外危機管理体制を考える

【インタビュー】

円 広志氏 (歌手、タレント)

第356号 (平成26年5月発行)

【特集】

外国人学生・留学経験者への就職支援



【座談会】

教養教育の復活—課題と展望

【インタビュー】

深海久美子氏 (手話通訳士)

※新連載スタート

【私の授業実践—教育現場の最前線から】

●私大連盟「第一回学長会議」開催

平成26年6月28日～29日の二日間にわたり、大阪国際会議場にて「平成26年度第一回学長会議」を開催。

「グローバル化する社会のもので大学教育改革支援」をテーマに掲げ、グローバル社会における教養教育のあり方、言語・英語教育のあり方、教育現場における教授方法を変えることとなるICT教育の可能性に焦点を当て、教育改革の内容、方法の行方を考える一助とすべく、六〇大、学六三名が参加し、協議した。

●私大連盟公式Facebookページ

私大連盟では、情報発信の多様化を目的として公式Facebookページを開設しています。

次号の『大学時報』に関する情報も随時更新していますので、ぜひご覧くださる。

(<http://www.facebook.com/shidainen>)



編集後記

□今号の特集では、多様化する学生寮を取り上げた。それぞれの寮でユニークな取り組みがなされていることがご理解いただけたことと思う。

学生寮は近年、異文化理解、他者との共生、といった観点から教育効果が注目されている。学生寮に入寮し、共同生活を通じて人間の成長を遂げる学生が増加することはすばらしいことだ。しかし、日本の大学に全寮制の伝統はなく、今後一般化するにも考えにくい。ということは、寮で生活し、その教育効果享受する学生は全学生の一部にとどまるということもある。学生寮における教育手法が開発され、教育効果が高まるほど、寮生とそうでない学生との、いわば格差が広がりがねない。

寮生が成長した、という成果に喜びそこにとどまらなことを、学生寮の教育効果を分析し、広く寮生以外の学生にも同じ教育効果をもたらすことができないか、それを考えていくのも大学の使命であろう。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・立教大学学生部事務部長付 木村健太)

□東京大学、京都大学がともに、二〇一六年度入試から推薦やAOなどを柱とする入試を導入すると発表し、話題を集めている。その背景には世界の大学ランキングで、東大三位、京大五位という結果から、「グローバル化が進む世界からとり残されている」という危機感があつたのだろう。

今号特別連載では、「高校は今」と題して高等学校段階での教育改革に焦点を当てた。たまたまった論文を拝読すると、各高等学校ではグローバル社会で活躍できるリーダーの育成や、多様な社会経済基盤を支える人材の育成など、質の高い積極的な取り組みがかなりのスピードで進んでいることをあらためて認識する。今後大学は、教育の連続性という観点からも、「高等学校の教育に深く関わった高大連携」を高等学校と実践していくことが求められている。

また今後、大学入試はいわゆる学科試験中心から、前述の東大・京大のような高校生を多面的・総合的に評価する入試にドラステックに変わっていく予感を覚える。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・関西学院大学入試部長補佐 筒井弘幸)

□家庭の財政に大きな影響を及ぼすことが懸念されていた消費税八％への引き上げから数カ月が経過した。増税前に決意した節約の気持ちはどこへやら、いつの間にか気にせず買い物をしている自分がいる。

さて、学校法人の会計状況にも大きな変化の波が押し寄せた。昭和四十二年に制定された学校法人会計基準、初の大改正である。今座談会では、「学校法人会計基準のこれまで、そしてこれから」と題し、計算書類の、わかりやすさ、と、的確さの向上などを目的とする同基準の改正に至るまでの過程について、さらに新基準により何を明確にするのかなどについてお話しいただいた。

幸福度ランキングアップは、ドラマや映画のロケ地となった大学を取り上げた。近所や見覚えのある景色が登場すると、ストーリーそっちのけで目が奪われてしまうことがよくある。ことさらそれが学生時代を過ごしたキャンパスであれば、このうえなく気持ちは高揚してしまうことだろう。寄稿いただいた原稿を拝読し、登場したドラマや映画をもう一度見たくくなった。この夏の予定は決定した。(日本私立大学連盟事務局 春名貴明)



本誌は、WEBサイトにて、全文を無料公開しています。

詳細は、<http://www.shidaiaren.or.jp/activities/daigakujihou> へ

※バックナンバー（第344号、平成24年5月発行より）もご覧いただけます。

QRコード（から連盟WEBサイトにアクセス）

大学時報

GO

